

知床のエコツアーリズム戦略と 地域資源の活用・保全



北海道大学観光学高等研究センター 敷田麻実

* 世界自然遺産管理におけるエコツーリズム

世界自然遺産地域管理者

環境省
釧路自然環境事務所

林野庁
北海道森林管理局

北海道

知床世界自然遺産地域科学委員会

海域WG

河川工作物ア
ドバイザー会議

エゾシカ・陸上
生態系WG

科学者による会議
(助言機関)

適正利用・エコ
ツーリズムWG

知床世界自然遺産地域適正利用・エコ
ツーリズム検討会議
(H22.4～)

知床世界自然遺産地域連絡会議

町、漁協、
知床財団等

地域との連携・
協働のための会議

適正利用・エコ
ツーリズム部会

シンボルマーク
管理運営部会

持続的な利用
のための会議



* 各ワーキンググループの活動

知床世界自然遺産地域科学委員会（大泰司紀之委員長）

- 海域ワーキンググループ（桜井泰憲座長）

「知床の海の保全と持続的漁業」

- 河川工作物アドバイザー会議（中村太士座長）

「海と川と陸のつながりを復元する ー知床におけるダムの改良」

- エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ（梶光一座長）

「知床のシカの急増が及ぼす植生への影響と管理」

- 適正利用・エコツアーリズムワーキンググループ（敷田担当）

＜平成23年度より＞

エコツアーに関するIUCNの勧告の内容

- 勧告14

遺産地域に関する、**統合的なエコツーリズム戦略を出来る限り早急に策定すること**。この戦略は、遺産地域の自然価値の保護、観光客の自然に基づく良質な体験の促進、地域経済の発展の促進を基本とすべき。

- 勧告15

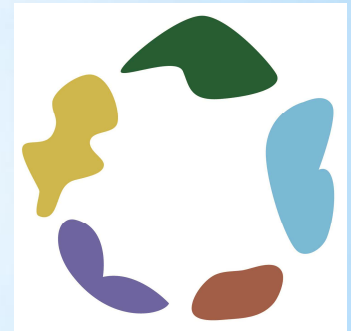
”適正な利用”と”エコツーリズム”に関連した現在の活動を継続するとともに、統合的な方法でこれらの事項に取り組むことを確保するため、**包括的な一つのワーキンググループ**のもとに統合すること。

- 勧告16

知床のエコツーリズム戦略と、知床内の**観光と経済的開発の地域戦略との間に密接に連携・統合**を確保すること。

エコツーリズム戦略は必要か？

- IUCNの勧告
- 知床世界自然遺産のブランド化
- エコツーリズムの普及と期待？
- エコツアーの与える影響の顕在化
- 地域主導のテスト実施



エコツーリズム戦略の3視点

知床地域のブランド化を通じた地域づくりのための

- ①プラットフォームの構築
- ②地域ガバナンスの再構築
- ③地域資源保全戦略の具現化

プラットフォームとは「複数のアクターが参加し、コミュニケーションや交流することで、相互に影響し合って何らかのものや価値を生み出すしくみ」 敷田ほか(投稿中)

ガバナンスとは「多様な主体の参加と協働のネットワークによって機能する政策決定や社会をまとめていくあり方」(齋藤ほか 2011)

プラットフォーム戦略

- エコツリーズを共有する場
 - 多様な関係者の合議が利益を拡大
- 課題解決の共通化が必要
 - 場所による解決レベルの差の解消
- 自由な発想や創造性をいかす
 - エコツア―事業者・ガイドの主体性

プラットフォームとは「複数のアクターが参加し、コミュニケーションや交流をすることで、相互に影響し合って何らかのものや価値を生み出すしくみ」

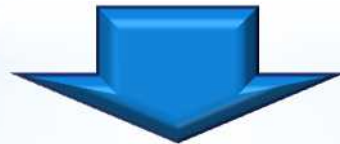
地域ガバナンスの再構築

- 2005年前後から管理者(国)の存在が拡大
 - 管理する・される側に分かれがち
 - エコツアー実施者と協働の機会が少ない
-
- 地域主導に仕組みに転換できるか

ガバナンスとは「多様な主体の参加と協働のネットワークによって機能する政策決定や社会をまとめていくあり方」(齋藤ほか 2011)

地域ガバナンスの再構築

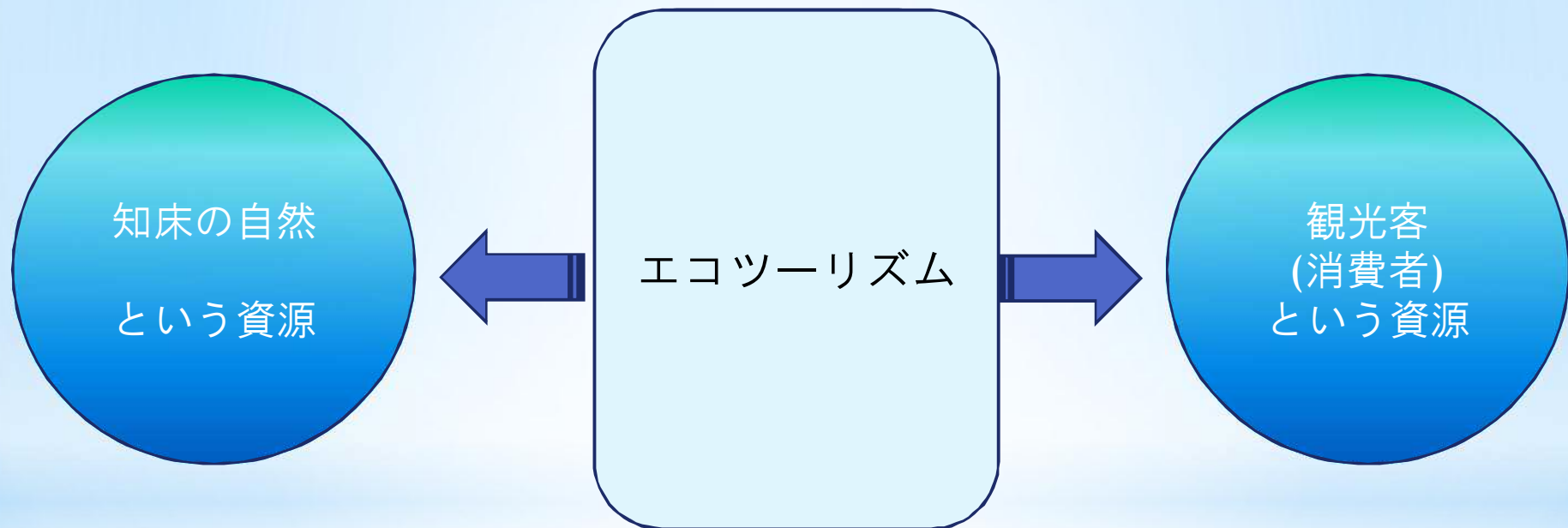
- 管理者(国)の存在が拡大
- 管理する・される側に分かれた現在
- 地域主導への期待と不安



新たな管理枠組みを戦略で構築する

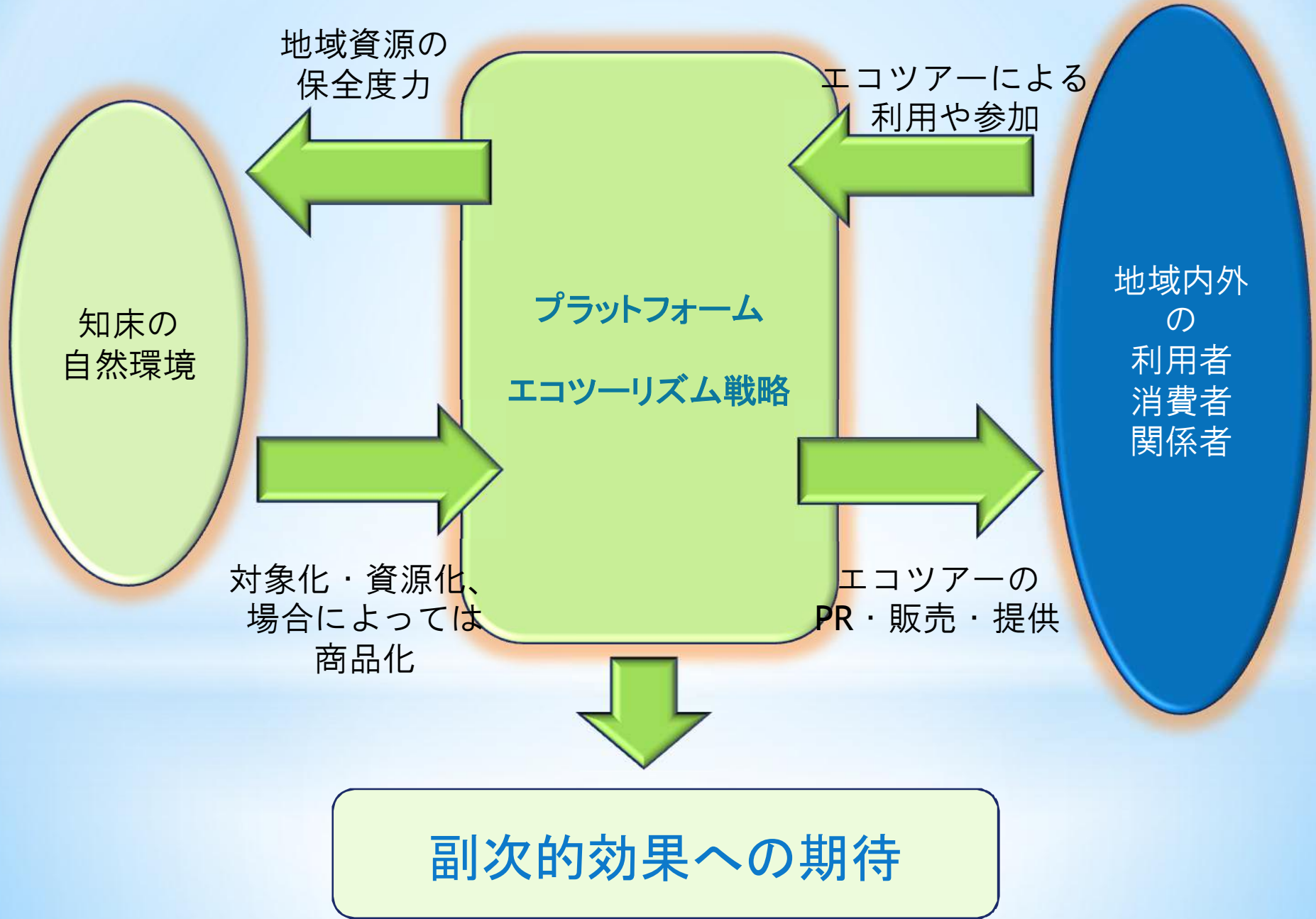
ガバナンスとは「多様な主体の参加と協働のネットワークによって機能する政策決定や社会をまとめていくあり方」(齋藤ほか 2011)

観光(エコツーリズム)の特殊性



観光システムは両側に資源の存在がある

地域資源保全のためのエコツーリズム戦略



END



北海道大学観光学高等研究センター 敷田麻実
ホームページのご案内

<http://www.cats.hokudai.ac.jp/~shikida/>

「敷田」で検索すると見つかります

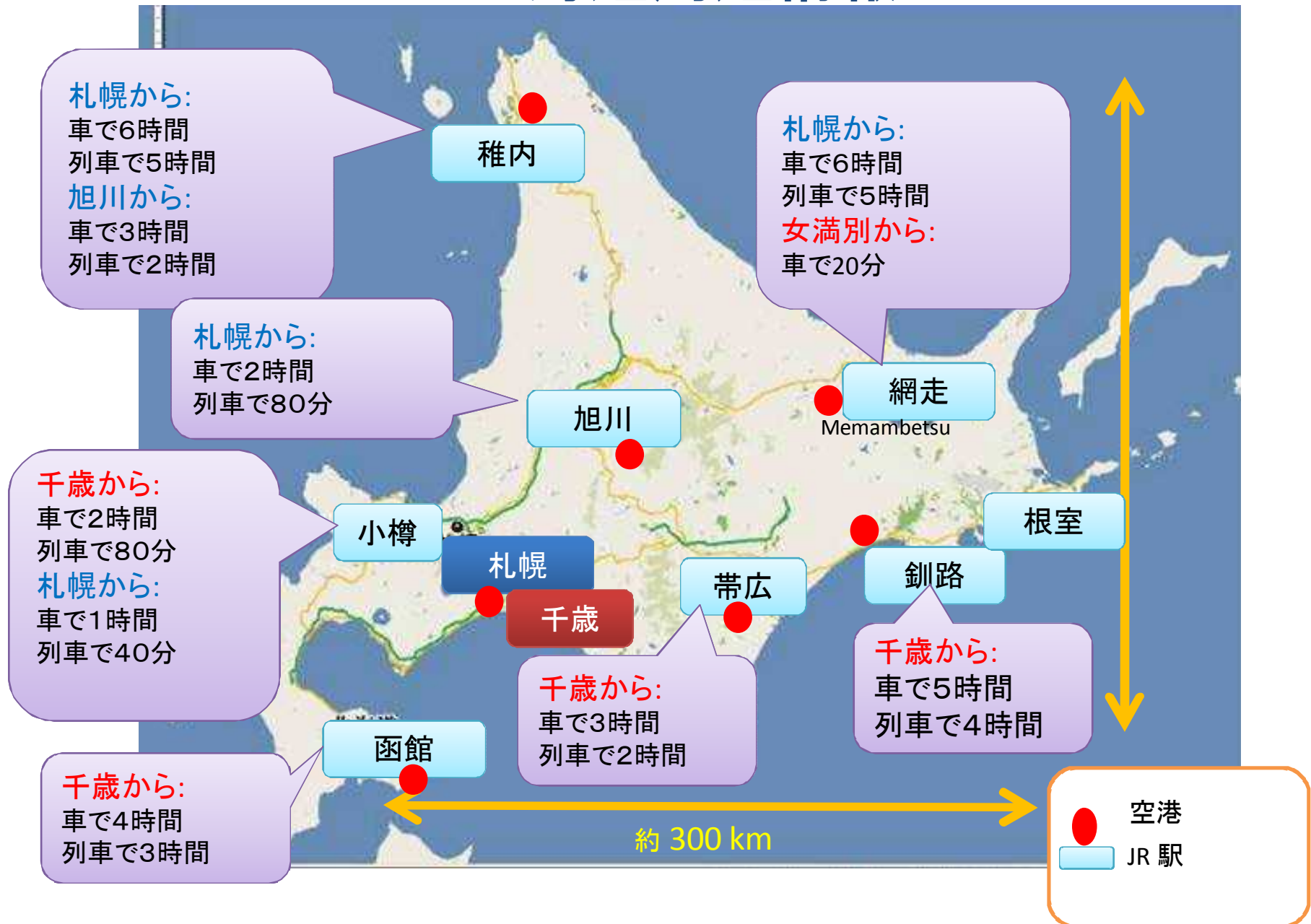
北海道の観光資料



作成：北海道経済部観光局

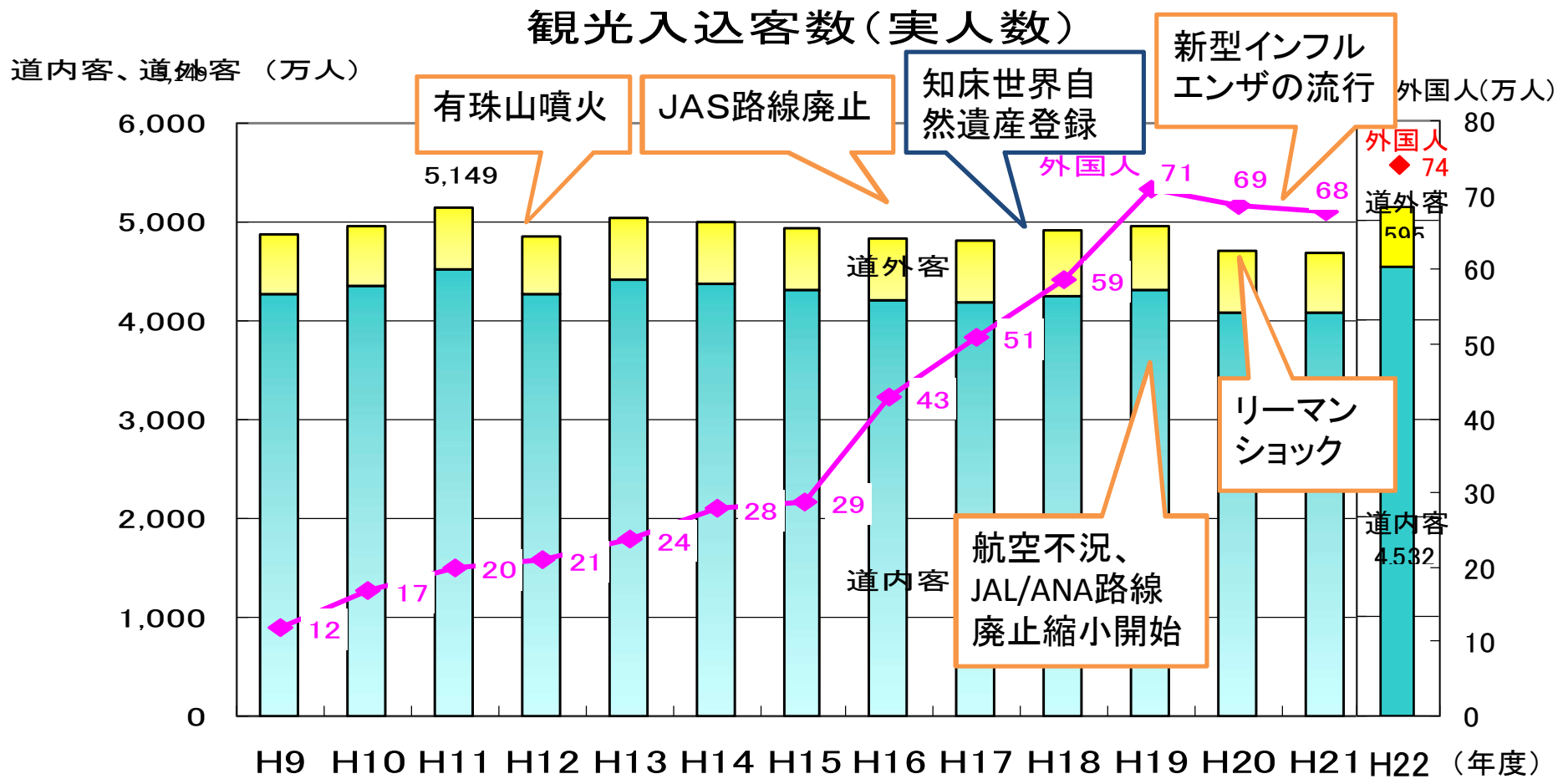


北海道周遊情報



観光入込客数 ～ 道民9割、道外1割強(うち外国人約1%強)

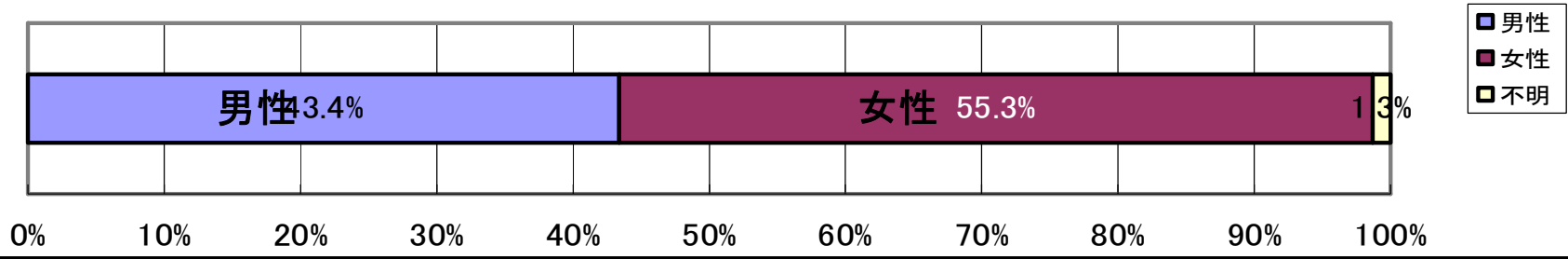
- 観光入込客数の約9割は道内容。
- 外国人観光客は、この10年間で約3倍に増加。
- 平成11年度をピークに、平成12年の有珠山噴火以降伸び悩み
- H22年度 総数5,125万人(道民4,532万、道外521万、外国人74万)



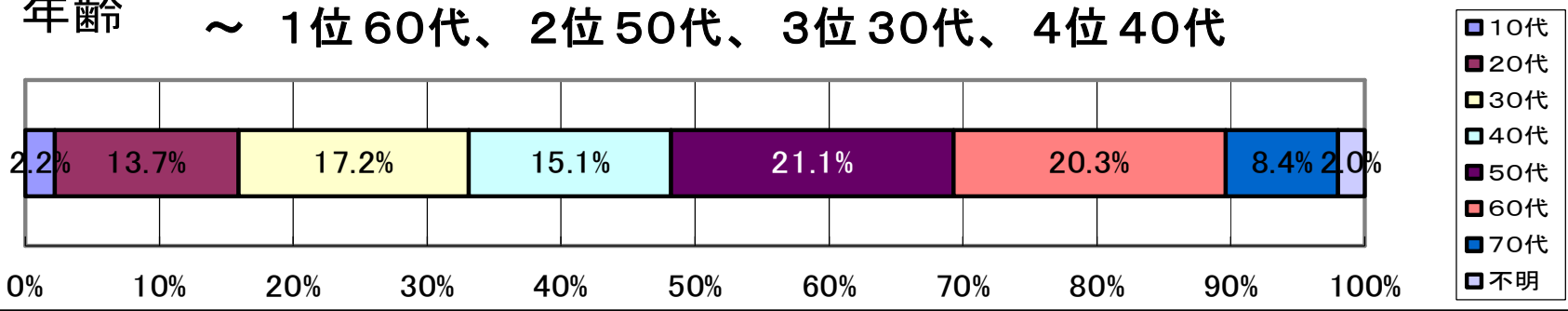
注) 平成22年度から

来道観光客の動態

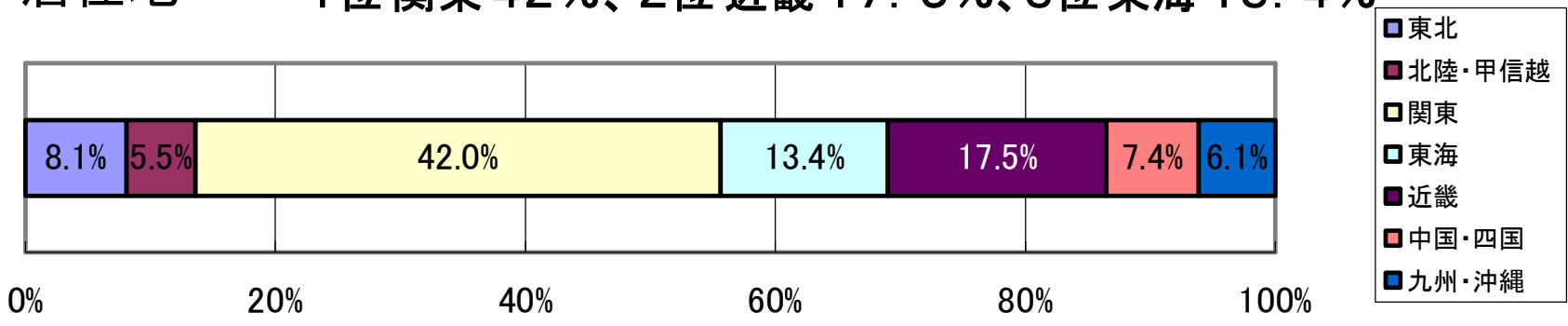
性別 ~ 過半数が女性



年齢 ~ 1位 60代、2位 50代、3位 30代、4位 40代



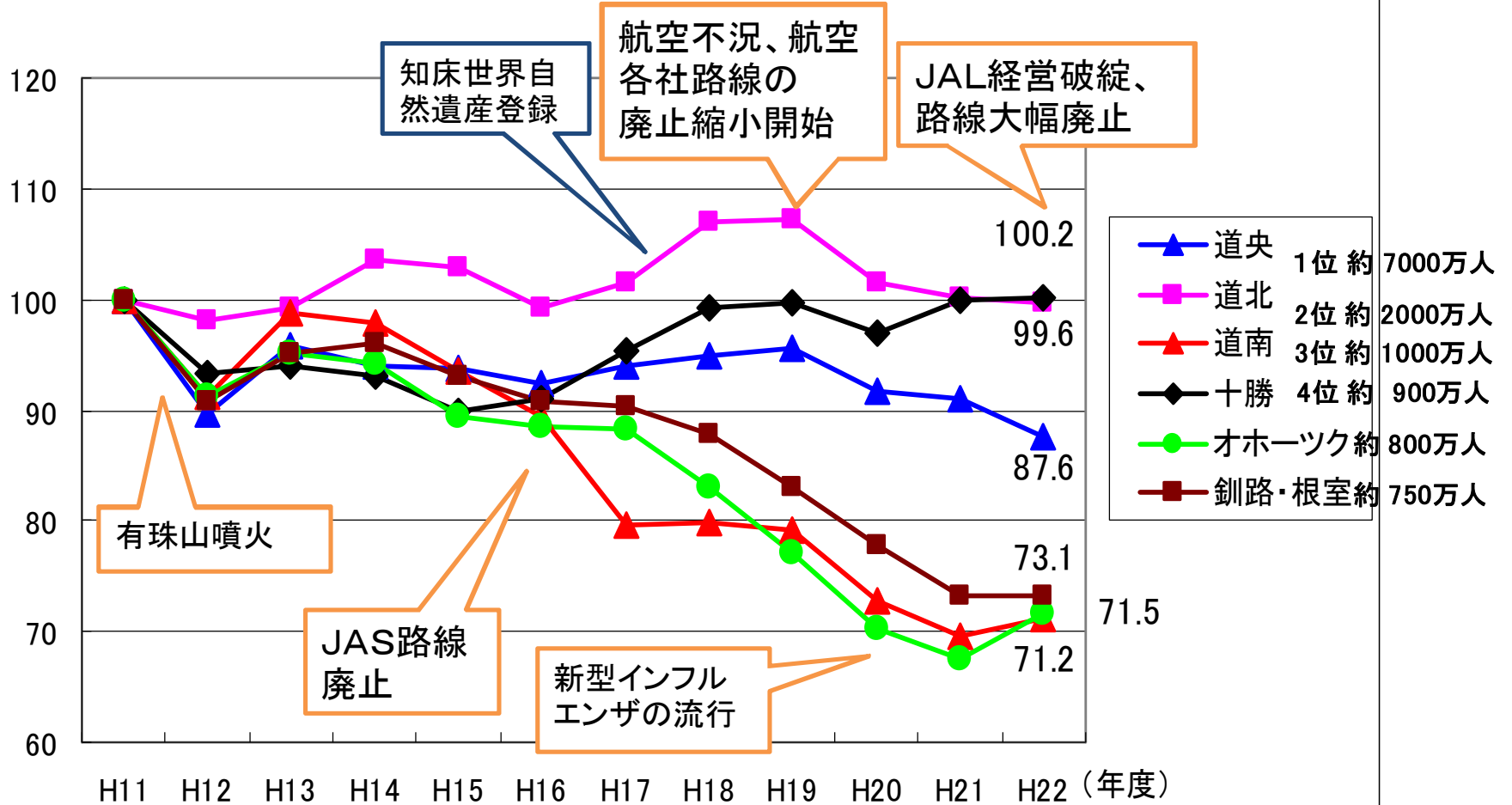
居住地 ~ 1位 関東 42%、2位 近畿 17.5%、3位 東海 13.4%



地域別入込客数

**十勝、道北地域 = 横ばい、道央地域 = 1割減、
道南、釧路・根室、オホーツク地域 = 3割減**

観光入込客数(延べ人数)の推移(圏域別)

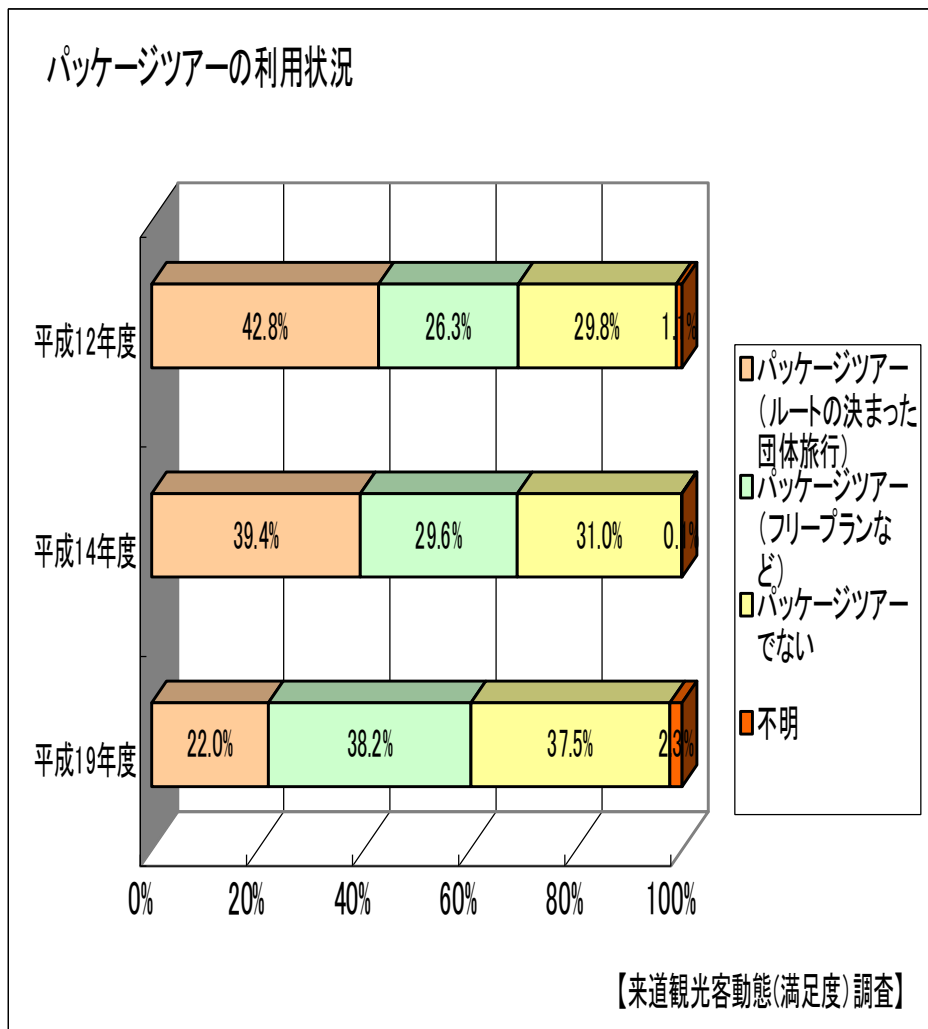
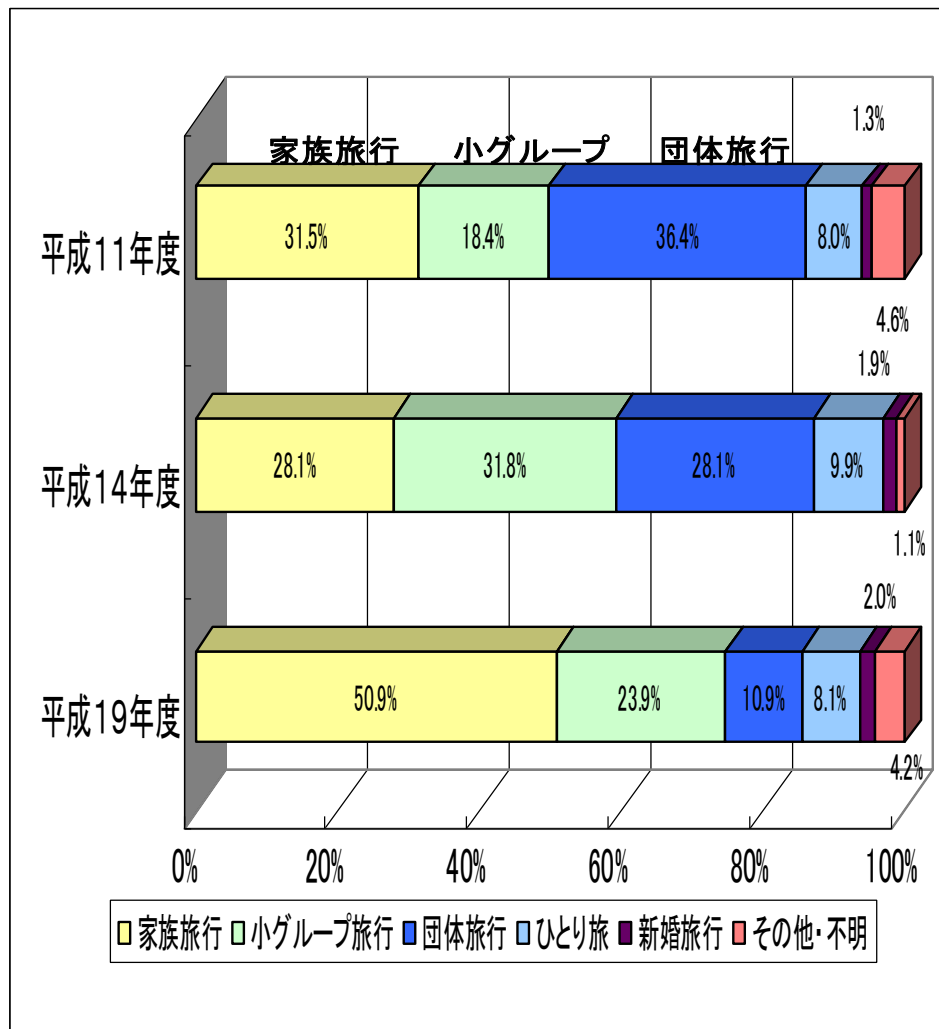


※H11年度の観光入込客数を100として、その増減を示したもの

【北海道観光入込客数調査】

旅行形態の変化 ～ FIT 旅行の増加 (Free Individual Tour)

■ 旅行形態は、団体旅行(36%→11%)から 家族旅行・小グループ旅行(50%→75%)へ
 ■ 旅行の種類は、団体からフリーへ パッケージツアーから個人・自由旅行へ



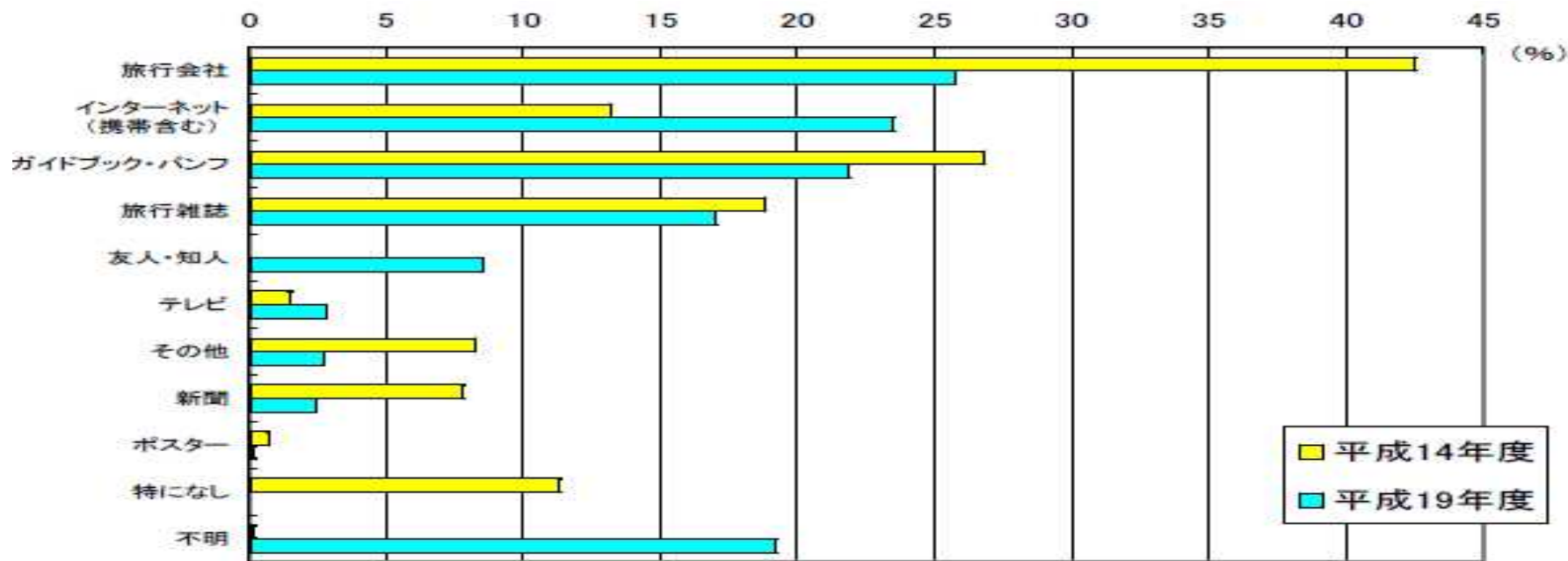
宿泊日数と旅行情報入手先

■旅行日程は短縮化の傾向

2泊3日：H11 35% → H19 58% に増加、3泊4日以上：H11 60% → H19 40% に減少

	H11	H14	H19	(H19－H14)
2泊3日以下	35.8%	51.2%	58.2%	+7.0%
3泊4日以上	60.5%	48.6%	40.0%	△8.6%
不明	3.8%	0.2%	1.8%	+1.6%

■情報の入手先の傾向 → 旅行会社が減少し、インターネット、友人知人、が増加



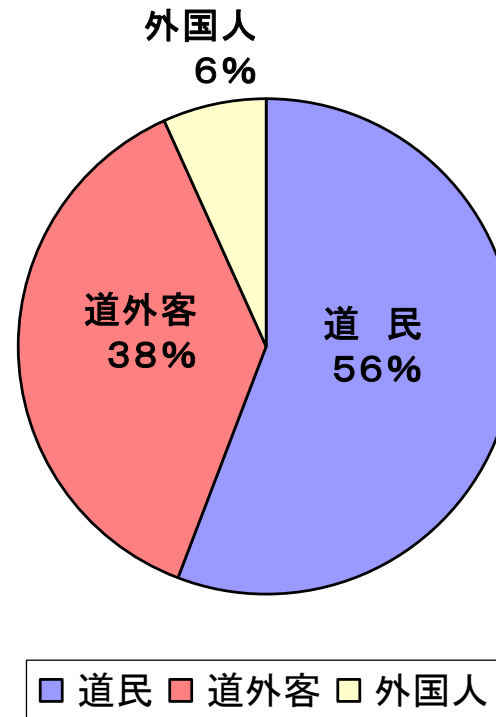
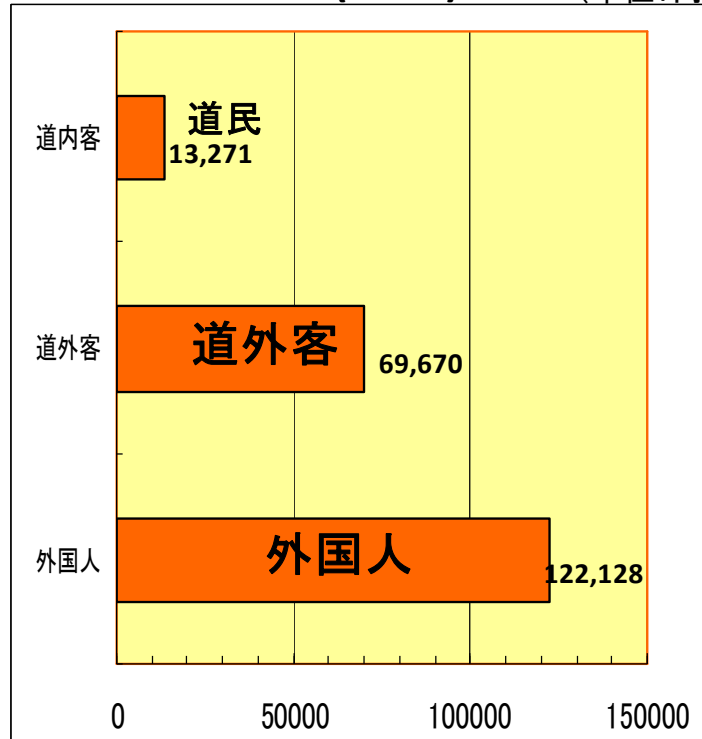
【来道観光客動態(満足度)調査】

観光消費額

■観光消費額単価は、道民に比べ
道外客は5.2倍、外国人は9.2倍！

■入込客数では約 1 割の
道外客＋外国人観光客だが
消費額は全体の 44% を占める！

観光消費額単価(一人) (単位:円)



観光消費額総額

	(億円)	(%)
道民	7,239	56%
道外客	4,898	44%
外国人	855	
計	12,992	

参考) 本道への観光入込客数(H23年度)

道民 4,068万人 (79.3%)
 道外客 487万人 (9.4%)
 外国人 57万人 (1.1%) 合計4,612万人

